

学校法人山村学園  
山村学園短期大学  
機関別評価結果

平成23年3月24日  
財団法人短期大学基準協会

## 山村学園短期大学の概要

設置者	学校法人 山村学園
理事長名	岡 實
学長名	藤巻 公裕
ALO	山村 穂高
開設年月日	平成元年4月1日
所在地	埼玉県比企郡鳩山町石坂604

### 設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
保育学科		80
コミュニケーション学科		70
	合計	150

### 専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

### 通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

## 機関別評価結果

山村学園短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 23 年 3 月 24 日付で適格と認める。

## 機関別評価結果の事由

### 1. 総評

平成 21 年 6 月 11 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学は、「質実」、「英知」、「愛敬」を建学の精神とし、「高い技術を持ち、地域社会に貢献できる人材の育成」、「一人ひとりを大切にす指導」を教育理念に持ち、時代と社会の変化にかんがみ、点検と見直しが定期的に行われている。この建学の精神、教育理念を基に各学科において教育目標を定め、オリエンテーション等で学生に分かりやすく説明を加えると同時に、具体的に教育目標の整備、資格の整備として具現化する努力がされている。

建学の精神の下、教育目的に則して教育課程が体系的に編成されており、その教育課程の内容も充実したものとなっている。また、フィールド・ユニット制を設けることにより学生の多様なニーズにこたえることができている。免許取得、資格取得、検定試験に対応した教育課程を編成することで学生の目標を明確にし、モチベーションを高めることができている。授業改善においても、授業評価、授業公開等を通して組織的な取り組みが行われている。

校地・校舎の面積及び教員組織は短期大学設置基準を満たし、適切に整備され、任用も規程に基づいて適切に運用されている。また、教育目標達成のために必要な教育環境、施設は整備されており、図書館運営についても、館内にリクエスト箱を設置し、学生の希望を募るなど図書選定にも力を入れ、学生にとって図書館を身近にする努力と利用者サービスに努めている。

教育目標の達成度と教育の効果は、全般的に適切と判断できる。多くの資格取得を目指す教育課程が整備され、その取得率の実績は極めて高く、教育の成果と評価することができる。また授業についても、学生の授業満足度に十分に配慮し、授業改善への努力や工夫などファカルティ・ディベロップメント（FD）活動に組織的に取り組んでいる。

入学に関する支援は、学校案内や募集要項、ウェブサイト、オープンキャンパスなどをつうじて適切に行われ、学習支援についても学生便覧を指針にして学科ごとにきめ細かい履修指導などのオリエンテーションが組織的に行われている。学生の相談体

制は担任を中心に、臨床心理士によるサポートも行われている。就職支援については、専門性の観点から保育学科においては専門就職率が高く、一般就職を含め当該短期大学が積極的に支援体制を整えている。実際、保育学科の学校斡旋が 100 パーセント、コミュニケーション学科の就職率も全国水準を上回る素晴らしい状況である。

教員の活動に関しては、大多数が著作、学術論文、学会発表、コンサートなどを行っており、総じて研究に意欲的に取り組んでいる。地域社会に貢献できる人材の育成を教育理念とし、積極的な社会的活動が行われており、地域の子育て支援施設の運営にも力を入れている。また、多くの学生がボランティアに貢献するなど、社会活動の重要性を認識し自主的に取り組みを行っている点は高く評価できる。

学校法人は、理事会、評議員会、経営会議などが一部を除き、諸規程に基づき適切に運営されており、理事長はリーダーシップを発揮している。短期大学においては、学長のリーダーシップの下に教授会の運営が規程に基づいて適切に行われている。

財務運営は情報公開を含め適切に行われている。財務体質はやや課題があるが、中期的な将来計画を立案し、その遂行に努めている。

さらに自己点検・評価の重要性を認識し、規程を整備するとともに学長・副学長を中心とした委員会の下に多くの教職員が関与する形で自己点検・評価報告書を定期的に発行しており、改善へとつなげている。また、この第三者評価を通して改革・改善に向けての努力がうかがえる。

## 2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

### (1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 保育学科において、2年生の「基礎演習Ⅱ」の授業で「骨太保育者」としての育ちを振り返ることができるようグループワークを設けたり、コミュニケーション学科において、「コミュニケーション基礎演習」、「コミュニケーション応用演習」の授業を設けたりと、授業及び年間行事を通して各学科の教育目的・目標の周知が図られ

ている。

- 「山村学園短期大学学生表彰規程」を制定し、「質実賞」、「英知賞」、「愛敬賞」など建学の精神に関する表彰を行い、建学の精神の体得に向けて学生が積極的に取り組むことができる体制を整えている。

#### 評価領域Ⅱ 教育の内容

- FD委員会が主体となって、授業公開週間を設定し学内の教員に公開するなど、積極的な授業改善に取り組んでいる。

#### 評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- コミュニケーション学科においては、進学希望者に対して適切に対応し、進学率100パーセントである。
- 保育学科において卒業後のケアを目的として「深緑きずなの会」を発足し、卒業生が直面している問題や悩みを解決すべくリカレント教育を実施している。

#### 評価領域Ⅴ 学生支援

- 保育学科の「総合演習」において、1泊2日の合宿を行い、グループエンカウンター、グループミーティングなどを取り入れて仲間とともに自分を振り返り、今後の学習課題を明確にしている。
- コミュニケーション学科において、日本人学生が留学生のボランティアチューターとしてサポートする支援体制が整えられている。

#### 評価領域Ⅶ 社会的活動

- 地域の子育て支援施設の管理運営に当たり、教員による特別講座や学生のボランティアサークルを中心にしたボランティア活動が積極的に行われている。

#### 評価領域Ⅷ 管理運営

- 学長自らが個々の専任教員にヒアリングを行ったり、兼任教員の授業担当者会に出席したりするなど、短期大学の活性化に積極的に取り組んでいる。

### (2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

#### 評価領域Ⅱ 教育の内容

- コミュニケーション学科において、フィールド・ユニット制をとっているものの、心理・福祉コミュニケーション科目群において専任教員は配置されていないため、バランスのとれた教員配置をすることが望まれる。

- シラバスの記載方法の内、評価方法の明記に統一性を欠いていること、最終講義が試験となっていること、学生の視点に立った到達目標を明確に定めることなどにおいて課題があり、シラバス作成に当たってのガバナンスが望まれる。

#### 評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 図書予算が少なく、運営に支障をきたす可能性があるため、図書予算の増加を図り、蔵書の充実が望まれる。

#### 評価領域Ⅷ 管理運営

- 決算及び事業の実績の評議員会への報告、重要事項の諮問などにおいて、私立学校法・寄附行為に抵触しており、理事会、評議員会、監事本来の機能を確認し、適切な運営をすることが必要である。

#### 評価領域Ⅸ 財務

- 余裕資金があるものの、短期大学部門及び学校法人全体の収支バランスにおいて支出超過であり、財務体質の改善が望まれる。

### **(3) 早急に改善を要すると判断される事項**

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

### 3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

#### 評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

当該短期大学は、建学の精神「質実」、「英知」、「愛敬」、教育理念「高い技術を持ち、地域社会に貢献できる人材の育成」、「一人ひとりを大切にす指導」が確立しており、パンフレット・ウェブサイト等の媒体を通して学内外に広く周知している。また、玄関ロビーに展示ケースを設置して、建学の精神、教育理念にかかわる資料を展示、ガイダンスや演習の時間を利用して専任教員がかみ砕いて説明すると同時に、グループワークなどで振り返りを行い、教職員、学生ともに、常に意識付けに努めている。

#### 評価領域Ⅱ 教育の内容

各学科の教育目標に即して、教育課程は体系的に編成されている。その教育課程の内容も充実したものとなっている。コミュニケーション学科においては、フィールド・ユニット制を設け、学生の多様なニーズにこたえることができている。さらに、免許取得、資格取得、検定試験に対応した教育課程を編成することで学生の目標を明確にし、モチベーションを高めることができている。授業改善においても、授業評価、授業公開、FD委員会の活動などを通して組織的な取り組みが行われ、成果をあげている。

#### 評価領域Ⅲ 教育の実施体制

各学科に配置されている教員数は短期大学設置基準を満たしており、年齢バランスも良くとれている。教員は短期大学の教員にふさわしい資格と資質を有しており、個々の教員が教育研究、短期大学運営、社会貢献に取り組んでいる。特に保育学科におい

ては、毎週定期的にミーティングを実施し、学生に関する情報交換をするなど積極的に学生支援に当たっている。教員組織は適切に整備され、採用と昇任に関しては規程に基づき適切に運用されている。また、教育目標達成のために必要な教育環境、施設は整備されており、すべてにおいて短期大学設置基準を満たしている。図書館運営についても、館内にリクエスト箱を設置し、学生の希望を募るなど図書選定にも力を入れ、学生にとって図書館を身近にする努力と利用者サービスに努めているが、図書予算が少なく運営に支障をきたす可能性を秘めていることから是正も必要である。

#### 評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

単位の認定方法は、出席状況や受講状況、筆記試験、レポート、作品提出、ノート提出、実技試験など、それぞれの授業の特性に対応した評価が行われている。単位の取得状況はおおむね良好であるが、若干のばらつきがあるため、組織的な評価制度の導入を検討することが望ましい。授業担当者は、学生の授業満足度を十分に配慮し、授業改善への努力や工夫を行っている。また、多くの資格を取得する教育課程が学生に提供され、その取得率の実績は十分である。

#### 評価領域Ⅴ 学生支援

入学に関する支援は、学校案内や募集要項、ウェブサイト、オープンキャンパスなどをつうじて適切に行われており、入学手続者に対しても学科ごとに必要な情報を提供するなどきめ細かい支援が行われている。

学習支援については、学生便覧を指針にして学科ごとにきめ細かい履修指導などのオリエンテーションが組織的に行われている。また、四年制大学編入を希望する優秀な学生に対しては個別に指導を行うなどして実績をあげている。

進路支援に関しては、専門職という観点からすれば、保育学科は十分な就職率であるものの、コミュニケーション学科は専門性の問題及び在学生の構成上、専門職就職が少ないのが現状である。しかしながら、保育学科の学校斡旋の就職が 100 パーセントであることは、就職先からの評価が高いことがうかがえると同時に、クラス担任制度を設けきめ細かい指導を行うなど、学生のニーズを十分に考慮し個々の学生に対する能力開発を行っていることがこのような成果を生み出しているといえる。

多様な学生に対する支援について、留学生受け入れを積極的に行い、支援体制も整っている。社会人学生に対する受け入れは行っているものの、特別な支援体制は整っていないのでその整備が望まれる。

#### 評価領域Ⅵ 研究

教員は総じて研究に意欲的に取り組んでおり、大多数が著作、学術論文、学会発表、コンサートなどを行い、前年度の実績については研究紀要に掲載し公開している。科学研究費補助金等の外部資金については、過去 3 ヶ年の間に共同研究において獲得し



た実績がある。

## 評価領域Ⅶ 社会的活動

地域に開かれた大学として、その役割を十分に果たすことを使命ととらえ、様々な活動を通して、当該短期大学が保有する知的財産を地域のために活用している。地域の委託事業として子育て支援施設である「つどいの広場（ぽっぽ）」の管理運営に当たり、教員、学生による活発なボランティア活動が積極的に行われている。

学生の社会的活動に関して、「ボランティア論」、「ボランティア実習」を教育課程に位置付けるなど、学生が社会人となるに当たって、重要な活動・経験としてとらえており、多くの学生がボランティア活動を行っている。特に、学生のボランティアサークルを中心にした活発な取り組みが行われている。

国際交流などの取り組みは、コミュニケーション学科において積極的に留学生の受け入れを行い、多くの留学生が在籍している。しかしながら留学生派遣に関しては、制度を設けてはいるものの、経済的理由などから利用者が皆無のため、改善が求められる。

## 評価領域Ⅷ 管理運営

私立学校法にのっとり、理事会は理事長がリーダーシップを発揮し、学園の最高意思決定機関として機能させている。また、中期的な将来計画を検討する諮問機関として理事を中心に構成した「山村学園中期計画実行検討委員会」を立ち上げ、財務を含めた将来計画の実行組織と準備等に関する事項について検討している。監事については学校法人以外の者から選任している。監査業務を行っているが、現在のところ、業務監査については十分とはいえず、監事のサポート体制を整備する必要があると思われる。また、私立学校法、寄附行為に照らし、評議員会へ諮問具申されていない事項が散見される。

短期大学の運営全般には学長の強力なリーダーシップの下に、教授会を中心に教学の議論が行われている。学長直轄の委員会として重要事項を審議する将来構想委員会を筆頭に、教育・研究・学生指導に関する委員会を教授会の下に設置し、適切に運営している。

事務職員及びその組織は、合理的に組織化されており、就業規則などの諸規程に基づいて適切に運営されている。スタッフ・ディベロップメント（SD）活動に関しても外部団体の研修制度及び他の大学事務職員との交流を行い能力向上に努めている。

## 評価領域Ⅸ 財務

理事長、理事会、経理部が中心となって財務運営を適切に行っており、財務情報公開についても私立学校法に基づいてウェブサイト上に適切に公開されている。また、毎年度の事業計画と予算編成については、基本方針に基づいて予算見積書を作成し、

学内で予算折衝を行った後に評議員会の意見を聞いた上で理事会にて承認するなど、適切に運営されている。監事及び公認会計士による財務監査も行われており、適切に財務運営が行われている。

財務状況については、余裕資金があるものの、学生数の減少に伴い財務体質を悪化させ、過去 3 ヶ年にわたり短期大学部門、学校法人全体のどちらにおいても支出超過が続いており、中期計画に基づいた着実な改善が望まれる。

施設設備の管理は諸規程に基づいて適切な管理が行われていると同時に危機管理規程を制定するなど組織的に取り組んでいる。

#### 評価領域 X 改革・改善

自己点検・評価の重要性を認識し、規程を整備するとともに審議を重ね、自己点検・評価報告書を平成 19 年度より定期的に発行している。また第三者評価を受けるに当たり、ALO を中心にした実施体制が整備されている。

学長・副学長を中心とした委員会の下に多くの教職員が関与する形で自己点検・評価報告書が作成されている。また、報告書を基に各部門で翌年度の課題解決に向けて改善のスパイラルを機能させている。

相互評価に関しては実施されておらず、今後の具体的な計画も立てていないことから、今後は積極的に相互評価を行い、様々な評価を通して当該短期大学の改革・改善に結び付けることが重要であると思われる。